



NO. 607
発行
07・7月20日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

要求による団結と 多数派が拡大の一步

地本主催『全分会長会議』が六月二十三日十三時三〇分から新潟市新潟会館で開催、全体で四十名が出席しました。

木村青年部長 講演

今回は、東日本本部の木村青年部長に講演をお願いし、青年部の状況



他労組の青年部の状況 拡大への取り組みなど報告、実態が講演されました。また、長野地本 堀内常任委員や上野支部 彦田常任委員からも職場の実態が報告されました。約二時間の限られた時間でしたが、全体が意思統一されました。最後には東新潟機関区分会の杉野君から、力強い団結頑張ることで終了しました。

やる時はやる 行動にメリハリを

エリア本部青年部（六名体制）で毎月一回の常任会議を開催。レクは年一回くらい（乗務員が多いので困難）開催している。

平成採用者の拡大について、組織状況を考えて



ると危機感はあるが簡単ではない。やる時はやる 行動にメリハリをつける。

国労運動は 間違っていない

青年部の年齢構成は三〇〜三十四才が多い。平成採用者の強化 拡大が重要課題。国労をどうするのか、青年部運動をどうするのか止念場。現状では青年部は加入してきている。

国労運動は間違っていない。現場の要求により団結 多数派に共感し加入している。しかし多く拡大されていない。

青年労働者は 何に不満か

青年労働者は何に不満か、貨物職場では賃金が安いと感じる＝83%

守橋委員長あいさつ

組織強化拡大の取り組みについて、支部代表者会議等で議論願ってきた。困難な状況だが、新たな取り組みも始まっている。



6月21日、JRで新しい労組が結成された。JR総連大会での東日本富田常務の『是々非々』発言が話題になっているが浦和事件の判決をにらんだ発言である。

国労東日本大会以降、15名が国労加入。赤羽駅では、20才の青年加入があった。各機関とも組織的な取り組みとして、職場の動き、変化をつかみ大胆に訴えてほしい。

JR不採用事件について～ 全動労裁判が7月25日結審、年内にも判決予想される。その他、鉄建公団、横浜人活、542名を擁した国労訴訟を闘っているが、弁護団等、お互い連携を強め対策をとっている。

また、ILO対策、政治対策、大衆行動の強化など全力をあげている。

大胆に 訴えてほしい



不満が多い、あきらめ感があつて若者らしさが無い。
労働組合について、不満が多いが必要性について90%が必要。国労については、良いが26%、悪いが4%、良くわからないが70%。宣伝がされていない。

50%は、賃上げを五万円以上要求。独身は、ひとり暮らしができない。生活が厳しい。仕事がつつい、要員が不足している。運転士は年休が取れない。そのため、はじめから申し込まない青年労働者がいる。

日勤職場、土曜日に出勤、休憩時間にも超勤にならない。小集団活動を強制的にさせられている。



デマを流す伝

木村青年部長は、八王子機関区で国労に加入した。ある日、現場長から一方的に高崎機関区へ強制転勤の発令があった。五年目になる。一週間前に事前通知があった。



堀内常任委員



後輩を加入させた

11年前に加入した、職場は篠ノ井機関区。ほとんど国労組合員の職場だった。国労は80名、鉄産労は若干、貨物労は数名。管理者から国労に対してあまりかかわるなと言われていた。しかし、助役より国労の教導さんの方が仕事について良く教えてくれた。差別されるかもしれないが、覚悟して4人国労に加入した。

その後、後輩が加入してくれた。そのことがあって貨物労の若い運転士が5人一気に主任に昇格した。

貨物労の青年は国労は正しいが差別が怖いと言っている。しかし継続して国労にかかわっている。

彦田常任委員



上野支部

国労に加入して2年。強制的に東労組へ加入。加入について、自宅で説明された。仕事について具体的に教導から指導されていない。現場では、椅子に座っているだけで良いと言われていた。それが、精神的なストレスとなり2ヶ月間、休職した。それについて国労組合員が相談してくれた。それが継続された。

会社側は精神的におかしくなって国労に加入したと宣伝した。新規採用者に対しても同様に宣伝している。現在は、若い労働者と話し合える雰囲気になった。労働条件に対して不満が多い。東労組青年部は管理者に言えない。国労青年部のように物が言えない。国労にその不満を上げて欲しいと訴えている。20才の青年が2名国労に加入した。国労の先輩の仕事振りを見て判断した。

他労組の青年は、声をかけてもらうだけでうれしいと感じている。職場でのあいさつは重要だ。加入のきっかけは人間関係、仲のいいところ、仕事ができること。

自信と確信を持って

の印象を悪くしている。青年労働者は国労

高崎機関区は、貨物労が六〇数名で国労が一〇名。転勤直後にデマ宣伝が流されていた。八王子機関区の時、貨物労からの情報しか入らない。デマ宣伝を流し国労

のやっていることはわかる。しかし昇格試験に合格しない。差別が怖い。労働組合が必要だと感じているが本質を理解していない。拡大具体的な行動を、国労の歴史

ある運動を発展させていく。要求による団結多数派をつくる。それが拡大の一步。国労組合員は、自信と確信を持つていか。機関会議を定期的に開催し職場の実態を把握する。みんなでひとりひとりがつくり上げる。学習会の開催は、運動を進めていくために必要だ。学習し知識を身に付

ける。職場要求を明確に、一職場一要求を。情報、機関紙など宣伝を強化し運動を他労組へ訴えていく。木村青年部長から組織拡大について具体的な状況も含め講演していただきました。

杉野君の団結がんばろう

青年部の講演を受けて職場の現状や取り組みについて各分会、支部から報告を受け、意見交換を行いました。最後に地本、関川書記長から今後の取り組みについての提起がありました。そして、杉野君から力強い団結がんばろうで集会を終りました。



2人国労に加入

東京の新橋支部・運転職場で6月30日付、7月1日付で運転士(28才)・(26才)2人が国労に加入しました。

